

教科名	芸術	単位数	2単位	担当者	鶴沼 範考
科目名	美術 I	年次	1年次		
使用教科書 副教材等	高校生の美術 1				
1 学習の到達目標（育成すべき資質・能力）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てることができる。</li> <li>・制作や鑑賞を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすことができる。</li> <li>・美術文化や自己と他者の考えの違いについての理解を深めることができる。</li> </ul>					
2 学習の評価（評価規準と評価方法）					
観点	a. 知識及び技能	b. 思考力,判断力,表現力等	c. 主体的に学習に取り組む態度		
観 点 の 趣 旨	創造的な美術の表現をするために必要な知識と技能を身につけ意図に応じて、表現方法を工夫することができる。また、美術作品などの表現の工夫や美術文化、美術史を理解することができる。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練ることができる。作品のよさや美しさを創造的に味わい、感じ取ったことを他者に論理的に伝えることができる。	表現方法や美術文化に興味関心を強く持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができる。		
主 た る 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品提出</li> <li>・自己評価</li> <li>・制作態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エスキース</li> <li>・自己評価</li> <li>・行動観察</li> <li>・相互鑑賞</li> <li>・作品提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エスキース</li> <li>・行動観察</li> <li>・自己評価</li> <li>・作品提出</li> </ul>		
評 価 全 体 に 占 め る 割 合	30%	30%	40%		
3 学習の目標と振り返り					
	《目 標》 ～何ができるようになりたいか具体的に～		《振り返り》 ～学習の振り返りと今後の課題～		
前 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		
後 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		

4 学習の内容						
学期	学習内容 (単元)	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c		
前期	◆オリエンテーション (1)	○			a:一年を通して、美術でどのような力をつけていくか、目標を明らかにする。	a:ワークシート
	◆デッサンの基礎 (1) 描画用具の基本的な使い方や、より多彩な表現をするための基礎的な方法を学ぶ。 ・鉛筆の削り方 ・鉛筆によるグラデーション演習	○	◎	○	a:鉛筆を、文字を書く道具ではなく、色を描く道具として扱うことができる。 c:デッサン用の鉛筆の削り方を学ぶとともに、様々なタッチを使い表現を工夫することができる。	c:ワークシート
	◆静物デッサン (8) 前時までに学んだ技法を用いながら、形の見方、光の見方を学び、対象を多角的に捉える力をつける。 ・構図の設定 ・パースと明暗のつけ方 ・細部の描き込み ・鑑賞	○ ◎ ○	○ ○	○	a:ものを描くことに興味を持ち、材料や表現方法を工夫し、対象を多角的に捉えることができる。 b:対象をしっかりと見つめ、観察し、主体的に創造的な構想を練ることができる。 c:描画材料の特性を理解し、目的や意図に応じて材料を選択し、またそれを生かした表現を工夫することができる。	a:行動観察 b/c:作品提出 c:自己評価
	◆色彩学の基礎 (8) ・色のイメージと効果 ・技法の確認 ・イメージを色で表現	○ ○	○ ◎	○	a:日常に在る豊かな色彩に関心をもち、その仕組みや効果を考え、作品制作に活かすことができる。 b:配色の法則、色彩調和の理論を十分に理解し、目的や美しさを基におき、創造的な表現の構想を練ることができる。 c:学習した色彩の仕組みを活かして独自の色作りや配色に創造的に取り組み、表現の技能を高めることができる。	a:行動観察 b/c:作品提出 c:自己評価
	◆静物着彩 (14) 構図の設定、形と光の捉え方を基礎にアクリルで静物画を描く。アクリル独自の技法を学びながら多彩な表現に挑戦する。 ・作品鑑賞 ・技法の確認 ・制作活動 ・鑑賞	○ ○	○ ◎	○	a:ものを描くことに興味を持ち、材料や表現方法を工夫し、対象を多角的に捉えることができる。 b:対象をしっかりと見つめ、観察し、主体的に創造的な構想を練ることができる。 c:描画材料の特性を理解し、目的や意図に応じて材料を選択し、またそれを生かした表現を工夫することができる。	a:行動観察 b/c:作品提出 c:自己評価
後期	◆立体構成 ジオラマの制作 (14) ・イメージデッサン ・骨組 ・肉付け ・着色 ・鑑賞	○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:主体的に対象のイメージや空間、形態などを把握、追求して表現することができる。 b:表現形式の特性を生かして形態を工夫して創造的な表現の構想を練ることができる。 c:意図に応じて用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求し表現できる。	a:行動観察 b/c:作品提出 c:自己評価 相互評価
	◆自画像のデザイン (12) ・ポップアートの鑑賞 ・写真を基に模写をする ・光と形態の変化、稜線について ・着彩 ・合評	○ ○	○ ○	○ ○	a:配色のもたらす効果を知り、積極的にデザインに活かすことができる。 b:感性や想像力を働かせて、意図した内容を伝えるために最も効果的な配色を考え、工夫して表現することができる。 c:意図に応じて表現方法を工夫し、独自の効果を生むことができる。	a:行動観察 b/c:作品提出 c:自己評価
	◆ストップモーションアニメ (12) ICT 機器を用いて、グループ作業で動画を制作する。  ・参考作品観賞 ・絵コンテ作成 ・撮影 ・編集 ・発表	○ ○ ○	○ ○	○ ○	a:動きの捉え方、動きを表現するための表し方を理解し、動画で表すことの可能性について考えようとしている。 b:動画ならではの表現方法や、ユニークな動きの追求など、テーマを持って制作に取り組んでいる。 c:様々な材料や用具を生かしながら、他者と協力し合いながら作業を進めることができる d:自己作品の意図を明確に発表するとともに、他者作品のよさを理解し、自らの作品に取り込むことができる	a:行動観察 b/c:作品提出 c:相互評価
	◆これからの美術	○			a:一年間で身につけた力を確認し、今後の進路においてどのように活用していくかを考えることができる。	a:ワークシート